

2022年度 事業報告書

特定非営利活動法人ピッコラーレ

1 事業の成果

22年度は各事業の安定運営を目標に活動を進めてきた。妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」は、新たに開始したTwitterDM相談の導入が進み、これまで繋がれなかった層と繋がることができるツールとしてうまく機能している。相談者数は対昨年で1.9倍に増加したが、その背景にはDM相談と併せて本格的に取り組んできたTwitter広報の効果が考えられる。同行支援は例年並みとなったが、同行支援に至るまでに本人や関連機関とのやり取りが60回にも及ぶケースもあり、繋がって、必要な社会資源に繋げるためには、丁寧なやり取り・調整力が必要であることを改めて感じている。中絶後の相談窓口「PUPU」も、対昨年比で相談者数が2倍を超え、社会的ニーズの高さを感じている。忙しさの増した1年ではあったが、相談員の採用育成も予定通り進み、チームで支援に当たる体制が維持できている。今後も引き続き、相談者にとって垣根の低い、相談しやすい窓口であり続けるために、相談窓口や広報のあり方を見つめ直し、アップデートし続けていきたい。

5年目となる支援者育成研修(研修A&B)について、研修受講者の中から、予定相談員数を新たに採用することができた。一方で、研修Aの定員数を1.5倍に増加させたが、目標定員数までは届かなかった。受講者の満足度は引き続き高い。一人でも多くの人に受講をしてもらえよう、来年度は周知方法を見直して臨みたい。

政策提言については、21年度に引き続きリプロ関連で多くの声がかかり、賛同団体として現場の声を様々な場で発信することができた。「妊娠葛藤白書」については、緩やかに売れ続けている。来年度も同様の活動を継続していきたい。

projectHOME(居場所事業)で展開している「ぴさら」(居所のない妊婦のための居場所)「ピコの保健室」(地域における包括的性教育)「ぴこカフェ」(豊島区より委託され運営している女の子/女性のための居場所)は人員不足の中ではあったが、それぞれ高まるニーズに精一杯の対応を行うことができた。「ぴさら」については、昨年度より里帰りのような日帰りやショートステイの利用希望が顕著に増えている。これらのニーズに応えるべくキャパシティの課題を解決するため、新たな拠点を獲得こととした。来年度は、各居場所の運営を担う人材育成に努めつつ、現場の新たなニーズに少しずつでも応えていきたい。

最後に、事業の安定運営には、安定的に財源を確保していくことが必須となる。22年度は念願の認定NPOを取得することができた。この点も活かしながら今まで以上に寄付等の資金調達に力を入れていきたい。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【92,170】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
性の健康や妊娠・出産に関する相談支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ●妊娠葛藤相談窓口の運営 1.にんしん SOS 東京 2.にんしん SOS 埼玉 3.にんしん SOS ちば ※産む・産まない、育てる・育てないにかかわらず、にんしんにまつわる全ての「困った」「どうしよう」に寄り添う 	【相談窓口開設時間】 1.にんしんSOS東京(自主運営):365日16:00~23:00(電話) 2.にんしんSOS埼玉(埼玉県より委託):365日16:00~23:00(電話) 3.にんしんSOSちば(千葉県より委託):365日16:00~23:00(電話) ※3つの窓口共通:メールは	【相談受付方法】 メール・電話・twitter ※twitter相談は「にんしんSOS東京」のみで実施 ※同行支援については、相談	約44名	日本全国	【妊娠葛藤相談窓口】 ・相談人数3,357人 ・相談延回数:13,802回 ・同行支援回数:57回 ※いずれも3つの窓口の合計数	48,796

	<ul style="list-style-type: none"> ●中絶後の相談窓口の運営 	<p>24時間年中無休で受付・必要に応じて医療機関や行政への同行支援を実施</p> <p>【相談窓口開設時間】 メールにて24時間年中無休で受付(返信対応は1回/週)</p>	<p>者が居住する地域にアウトリーチ</p> <p>中絶後の相談窓口は、メールのみで受付</p>			<p>【中絶後の相談窓口】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談人数85人 ・相談延回数316回 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援者養成研修「思いがけない妊娠相談事例から学ぶセミナー(A&B研修)」の開催 	<p>A:2022/9/17 B:2022/10/1&10/16</p>	<p>A:オンライン B:1日目オンライン, 2日目豊島区(東京)</p>	<p>約10名 約10名</p>	<p>日本 全国</p>	<p>参加人数 A:90名/定員150 B:48名/定員50</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ●「妊娠葛藤白書」販売(2021年4月1日発行) ●「妊娠葛藤白書」を活用した政策提言活動 	<p>通年</p>	<p>オンライン販売 提言先:厚労省他</p>	<p>約10名</p>	<p>日本 全国</p>	<p>販売数:119冊</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ●妊娠葛藤を取り巻く課題を啓発するための講演活動 	<p>依頼に応じて</p>	<p>オンラインを中心に講演</p>	<p>約10名</p>	<p>日本 全国</p>	<p>約5,000人</p>	
<p>青少年や母子の健康推進に関する啓発普及やそれに関する事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●居所のない妊婦のための居場所つくり「project HOME」 1.「びさら」の運営 2. リサーチ活動「若年妊婦のための居場所「びさら」～3年間のあゆみ～」制作 3.他地域で妊産婦の居場所運営を行っている団体との共同勉強会実施 ●ピコの保健室 主に10代を対象とした包括的性教育の継続的实践 1.来所型 2.出張型 ※他機関(学校や地域のユースセンター等)と連携した出張型保健室 3.講演型 	<p>通年</p> <p>【ピコの保健室開催日】 1.来所型:随時 2.出張型:各施設で月1回程度 3.講演型:依頼に応じて</p>	<p>豊島区</p> <p>豊島区を中心に関東圏</p>	<p>約30名</p> <p>約3名</p>	<p>関東圏を中心に日本全国</p> <p>日本全国</p>	<p>【びさら利用状況】 宿泊利用人数(妊産婦9人) デイ利用回数:69人</p> <p>【共同勉強会】 実施回数:3回 延べ参加人数:約60人</p> <p>【ピコの保健室】 1～3合計: 約300人</p> <p>出張保健室:34回開催</p> <p>包括的性教育講座: 1回開催</p>	<p>43,374</p>

<p>●びこカフェの運営</p> <p>主に10・20代の若年女性を対象に、安心して相談もできる居場所の運営(豊島区より委託)</p> <p>※生理用品の無料配布等を通して、体のこと、関係性、パートナーシップなどについての相談機会も積極的に提供</p>	<p>【びこカフェ開催日】</p> <p>・月2回(第2火曜日、第4日曜日)15:00～19:00</p> <p>※22年4月～23年4月</p>	<p>池袋サンシャインシティ内</p> <p>GLOCAL CAFE</p>	<p>約15名</p>	<p>豊島区を中心に関東圏</p>	<p>【びこカフェ利用者数】</p> <p>・211名</p>	
--	---	--	-------------	-------------------	---------------------------------	--